

# 2023年度 決算説明資料

2024年5月31日

# 目次

---

## 1. 2023年度 連結実績

- 1) セメント国内需要・輸出数量推移
- 2) 諸元
- 3) 損益計算書
- 4) セグメント別売上高・営業利益
- 5) セメント国内営業利益 要因内訳
- 6) 損益計算書（業績予想比）
- 7) 貸借対照表
- 8) キャッシュ・フロー計算書

## 2. 2024年度 連結予想

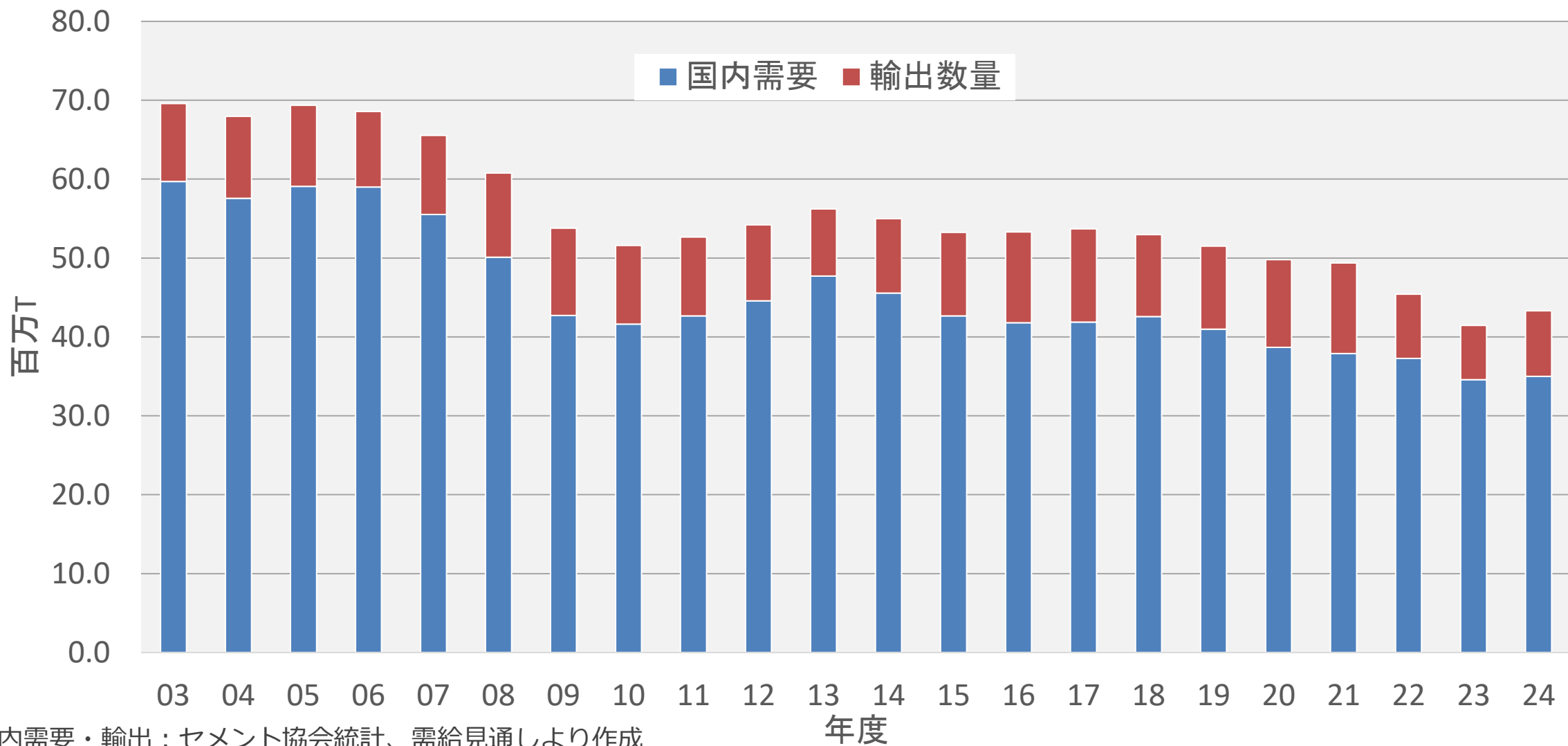
- 1) 諸元
- 2) 損益計算書
- 3) セグメント別売上高・営業利益
- 4) キャッシュ・フロー計算書

## 3. 参考情報

- 1) 四半期別諸元推移
- 2) 四半期別連結セグメント別売上高・営業利益推移

# 1. 2023年度 連結実績

# 1. 1) セメント国内需要・輸出数量推移



国内需要・輸出：セメント協会統計、需給見通しより作成

## 1. 2) 2023年度 連結実績 諸元

		2022年度	2023年度	増減
セメント国内需要	万 t	3,728	3,458	△ 270
セメント販売数量 国内	万 t	909	820	△ 89
セメント販売数量 輸出 (クワン-含む)	万 t	370	278	△ 93
セメント販売数量 米国	万 s t	163	173	+ 10
生コン 販売数量 米国	万 c y	674	674	△ 0
石炭 (一般炭) FOB価格	\$/t	356	142	△ 214
為替レート	円/\$	135	145	+ 9

連結子会社等の状況		2023年3月末	2024年3月末	増減
連結子会社数	社	51	51	—
持分法適用会社数	社	12	11	△ 1

ピーエス三菱

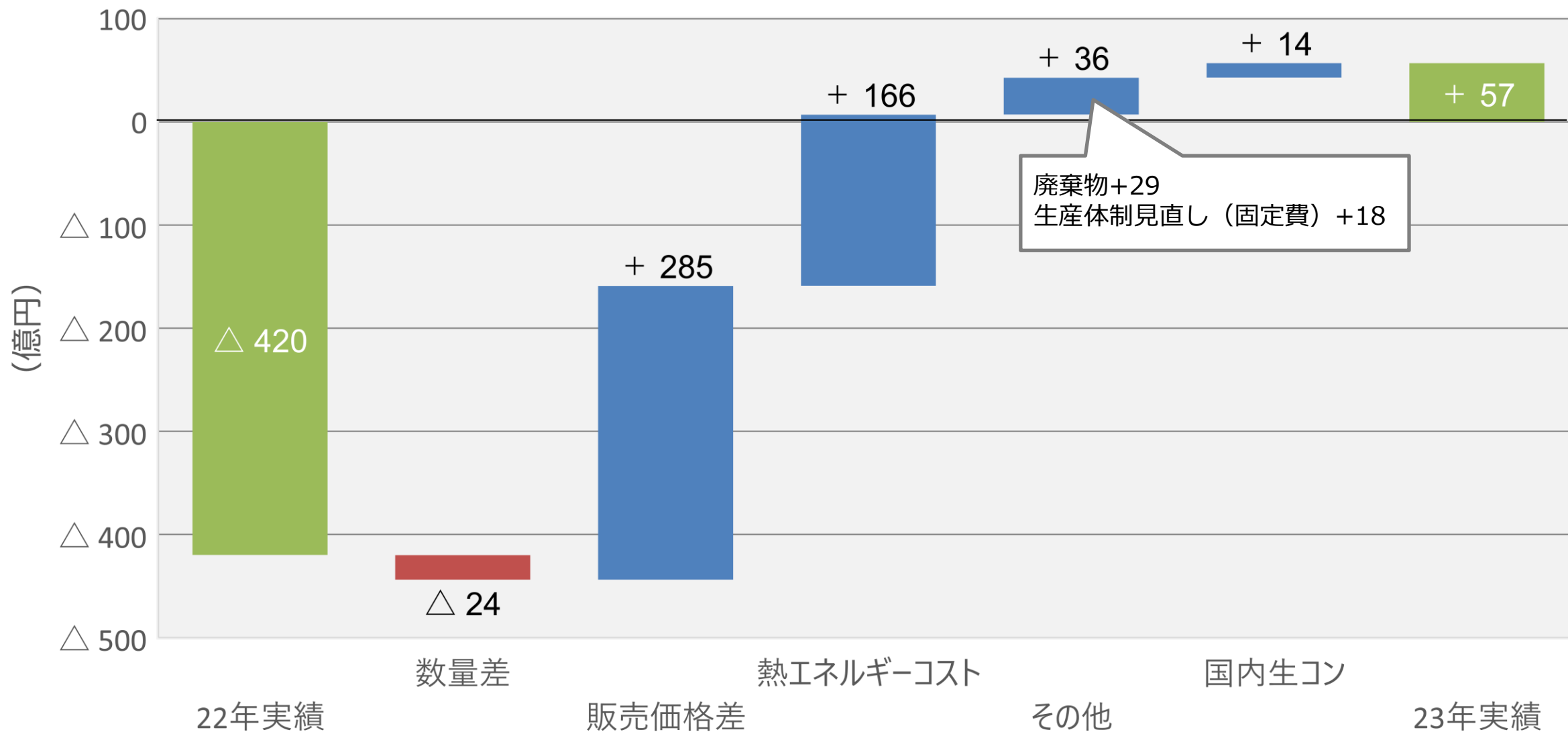
# 1. 3) 2023年度 連結実績 損益計算書 (前年同期比)

(単位：億円※億円単位未満切捨て)	2022年度	2023年度	増減	差異内訳
売上高	5,763	5,852	+ 89	セメント+607、環境エネルギー△556
うち海外事業	1,401	1,781	+ 379	米国+378
営業利益	△ 283	456	+ 740	セメント+719
うち海外事業	79	306	+ 226	米国+242
金融収支	△ 10	△ 3	+ 7	
持分法損益	14	10	△ 4	
その他営業外損益	21	13	△ 8	
経常利益	△ 257	476	+ 734	
特別損益	△ 169	△ 48	+ 121	事業構造改善費用+126
法人税等	△ 45	△ 182	△ 136	法人税等△79、非支配株主利益△57
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 473	245	+ 719	

# 1. 4) 2023年度 連結実績 セグメント別売上高・営業利益（前年同期比）

（単位：億円 ※億円単位未満切捨て）		事業概要		2022年度	2023年度	増減	営業利益差異内訳
セメント事業	セメント、セメント系固化材及びスラグ等の製造、加工及び売買ならびに石灰石の採掘	売上高		3,040	3,647	+ 607	国内事業 + 477
		営業利益		△ 414	304	+ 719	米国事業 + 242
環境エネルギー事業	廃棄物等の収集及び処分、発電及び電力供給ならびに石炭の売買	売上高		1,976	1,419	△ 556	豪州事業 石炭市況悪化
		営業利益		131	109	△ 22	
資源事業	鉍産品及び建材の製造、加工及び売買	売上高		714	785	+ 70	販売価格値上げの浸透
		営業利益		△ 2	23	+ 25	
その他・共通	その他関連事業	売上高		31	0	△ 31	
		営業利益		1	19	+ 17	
計		売上高		5,763	5,852	+ 89	
		営業利益		△ 283	456	+ 740	

# 1. 5) 2023年度 連結実績 セメント国内営業利益 要因内訳 (前年同期比)





# 1. 6) 2023年度 連結実績 損益計算書 (業績予想比)

(単位：億円※億円単位未満切捨て)	前回予想 (2月公表値)	実績	増減	差異内訳
売上高	5,900	5,852	△ 47	セメント販売減
うち海外事業	1,800	1,781	△ 18	
営業利益	395	456	+ 61	セメント+ 45、環境+ 6、資源+ 2
うち海外事業	265	306	+ 41	米国：販売先構成差、原材料費減
金融収支	△ 9	△ 3	+ 5	
持分法損益	9	10	+ 1	
その他営業外損益	10	13	+ 3	
経常利益	405	476	+ 71	
特別損益	△ 52	△ 48	+ 3	
法人税等	△ 158	△ 182	△ 24	
親会社株主に帰属する 当期純利益	195	245	+ 50	

# 1. 7) 2023年度 連結実績 貸借対照表 (前年同期比)

(単位：億円※億円単位未満切捨て)		2023年3月末	2024年3月末	増減	差異内訳
資産 合計		7,726	8,129	+ 403	為替影響+235
負債	有利子負債	2,175	1,807	△ 367	
	その他負債	1,975	2,159	+ 184	繰延税金負債+72、為替影響+47、資産除去債務+18
	合計	4,150	3,967	△ 182	
純資産	資本金	502	502	—	
	利益剰余金他	3,073	3,659	+ 586	
	合計	3,576	4,162	+ 586	
現預金残高		644	732	+ 88	
自己資本比率		41.4%	44.9%	3.5%	
ネットDELシオ		0.48倍	0.29倍	△0.19倍	
ROA (※純利ベース)		—	3.1%	—	
ROE		—	7.2%	—	

# 1. 8) 2023年度 連結実績 キャッシュ・フロー計算書 (前年同期比)

(単位：億円※億円単位未満切捨て)	2022年度	2023年度	増減	差異内訳
営業活動によるCF ※	15	755	+ 740	
投資活動によるCF ※	△ 419	△ 305	+ 113	ピーエス三菱株式売却
フリーキャッシュフロー	△ 403	450	+ 853	
財務活動によるCF	433	△ 391	△ 824	
現金及び現金同等物の残高	623	699	+ 75	
※うち減価償却費	413	414	+ 0	
※うち設備投資	△ 415	△ 400	+ 15	

## 2. 2024年度 連結予想

## 2. 1) 2024年度 連結予想 諸元

		2023年度 実績	2024年度 予想	増減
セメント国内需要	万 t	3,458	3,500	+ 42
セメント販売数量 国内	万 t	820	850	+ 30
セメント販売数量 輸出 (ｸﾘｯｶ-含む)	万 t	278	300	+ 22
セメント販売数量 米国	万 s t	173	179	+ 6
生ｺﾝ 販売数量 米国	万 c y	674	704	+ 29
石炭 (一般炭) FOB価格	\$/t	142	180	+ 38
為替レート	円/\$	145	145	+ 0

		2024年3月末 実績	2025年3月末 予想	増減
連結子会社等の状況				
連結子会社数	社	51	51	-
持分法適用会社数	社	11	10	△ 1 やまよ商事

## 2. 2) 2024年度 連結予想 損益計算書 (前年同期比)

(単位：億円※億円単位未満切捨て)	2023年度 実績	2024年度 予想	増減	差異内訳
売上高	5,852	6,050	+ 197	セメント+242、環境エネルギー△89
うち海外事業	1,781	1,950	+ 168	米国+191
営業利益	456	430	△ 26	
うち海外事業	306	280	△ 26	豪州
金融収支	△ 3	△ 10	△ 6	
持分法損益	10	4	△ 5	
その他営業外損益	13	△ 4	△ 17	
経常利益	476	420	△ 56	
特別損益	△ 48	△ 30	+ 18	
法人税等	△ 182	△ 180	+ 2	
親会社株主に帰属する 当期純利益	245	210	△ 35	

## 2. 3) 2024年度 連結予想 セグメント別売上高・営業利益（前年同期比）

（単位：億円 ※億円単位未満切捨て）		2023年度 実績	2024年度 予想	増減	営業利益差異内訳
セメント事業	売上高	3,647	3,890	+ 242	米国 + 191
	営業利益	304	320	+ 15	国内：セメント・固化材販売価格差 + 51 輸出セメント販売価格差 △ 24 熱エネルギーコスト + 54 物流コスト △ 39
環境エネルギー事業	売上高	1,419	1,330	△ 89	電力事業 販売数量減
	営業利益	109	60	△ 49	豪州事業 販売価格差
資源事業	売上高	785	820	+ 34	
	営業利益	23	30	+ 6	
その他・共通	売上高	0	10	+ 9	
	営業利益	19	20	+ 0	
計	売上高	5,852	6,050	+ 197	
	営業利益	456	430	△ 26	

## 2. 4) 2024年度 連結予想 キャッシュ・フロー計算書（前年同期比）

(単位：億円※億円単位未満切捨て)	2023年度 実績	2024年度 予想	増減	差異内訳
営業活動によるCF ※	755	851	+ 95	
投資活動によるCF ※	△ 305	△ 608	△ 303	設備投資増加および 前期におけるピーエス三菱株式売却の反動減
フリーキャッシュフロー	450	242	△ 207	
財務活動によるCF	△ 391	△ 251	+ 140	
現金及び現金同等物の残高	699			
※うち減価償却費	414	427	+ 12	
※うち設備投資	△ 400	△ 578	△ 178	戦略投資（産廃増処理）、IT投資



## 3. 参考情報

### 3. 1) 四半期別諸元推移

			2022年度 実績							2023年度 実績						
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間
セメント国内需要		万 t	918	942	1,860	1,000	868	1,868	3,728	858	882	1,739	932	787	1,719	3,458
セメント販売数量	国内	万 t	226	232	457	243	208	451	909	206	210	415	220	185	404	820
セメント販売数量 (クワカ含む)	輸出	万 t	116	103	220	84	66	151	370	42	85	127	60	91	151	278
セメント販売数量	米国	万 s t	50	42	92	40	31	71	163	49	43	93	42	38	80	173
生コン 販売数量	米国	万 c y	184	184	368	180	127	307	675	202	179	381	157	136	293	674
石炭（一般炭） FOB価格		\$/t	377	421	399	379	248	314	356	158	149	152	135	125	130	142
為替レート		円/\$	130	138	134	142	132	137	135	137	145	141	148	149	148	145

### 3. 2) 四半期別連結セグメント別売上高・営業利益推移

(単位：億円※億円単位未満切捨て)		2022年度 実績							2023年度 実績						
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間
セメント事業	売上高	710	803	1,514	876	649	1,525	3,040	882	950	1,832	948	866	1,815	3,647
	営業利益	△ 62	△ 155	△ 217	△ 99	△ 97	△ 197	△ 414	56	82	138	100	65	166	304
環境エネルギー事業	売上高	380	508	888	592	495	1,087	1,976	412	363	776	338	305	643	1,419
	営業利益	△ 7	29	22	52	56	109	131	36	26	63	33	12	46	109
資源事業	売上高	171	179	350	187	176	363	714	184	197	381	205	198	403	785
	営業利益	1	0	1	3	△ 6	△ 3	△ 2	2	6	8	11	4	15	23
その他・共通	売上高	16	15	31	17	△ 18	0	31	0	0	△ 1	△ 2	4	1	0
	営業利益	△ 10	3	△ 6	1	6	8	1	△ 1	7	5	3	9	13	19
合計	売上高	1,278	1,507	2,786	1,673	1,303	2,976	5,763	1,478	1,510	2,989	1,489	1,374	2,863	5,852
	営業利益	△ 78	△ 121	△ 200	△ 41	△ 41	△ 83	△ 283	94	121	215	149	91	241	456

### 将来の見通しの記述について

本資料にある計画、戦略、業績予想等に関する記述は、記述した時点で当社が入手できた情報に基づいたものです。これらの予想・予測には、当社を取り巻く経済情勢、競合環境、関連法規、為替レート等不確実な要素が含まれており、これらの予想・予測を覆す潜在的なリスクが顕在化する可能性もあります。したがって、将来の実際の業績・事業環境等が本資料の記述と異なったものとなる可能性があることをご承知おきください。

# 中期経営戦略進捗報告

Infinity with Will 2025

～MUCCサステイナブルプラン1st STEP～

## 中期経営戦略1年目の総括

- 中経1年目は、必達目標であった「2023年度の黒字化」を達成  
2025年度に計画としていた営業利益390億円を上回る

	2022年度	2023年度	2025年度 計画
営業利益	△283 億円	456 億円	390 億円
ROE	— %	7.2 %	5.5 %
ROA	— %	3.1 %	2.5 %

## 1st STEPの概要

名称

### Infinity with Will 2025 ～MUCCサステイナブルプラン 1st STEP～

方針

「2023年度の黒字化」および「目指す姿に向けた足元固め」と「新たなビジネス創出・成長戦略への種まき」を推進する3カ年

重要施策

最重要施策

- ① 国内セメント事業の体質強化・コストダウン  
2022年度足元固めによる2023年度の国内セメント事業の黒字化達成
- ② 米国事業の成長・新規拠点の探索  
売上拡大とコスト抑制による垂直統合モデルの価値最大化
- ③ 地球温暖化対策の推進  
エネルギー代替の促進とエネルギー転換、CCU技術開発
- ④ 国内バリューチェーンの強化・拡大  
非化石エネルギー化の推進、石灰石資源を通じた利益の最大化、川下事業の強化/拡充
- ⑤ 研究開発・経営ソフトの強化  
研究開発体制の強化、適正人員配置の推進、DX推進組織設置

# ①国内セメント事業の体質強化・コストダウン、②米国事業の成長・新規拠点の探索

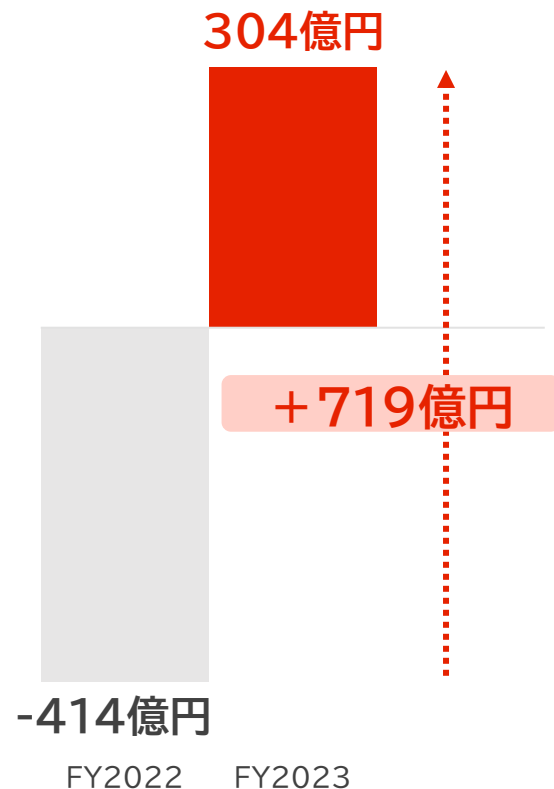
- 国内: 価格転嫁とコストダウン施策の実施
- 米国: セメント・生コン供給体制強化と価格転嫁の早期達成

▶ **大幅な収益改善を達成**

## ■ セメント事業営業利益

### 事業環境

### 取組み



- 国内
- 内需 3,800万t⇒3,458万t
  - 石炭価格はピークを過ぎるもコストは高止まり (諸資材、物流費、人件費)

- 生産体制変更実施 (青森・伊佐1K)
- 原燃料価格等の価格転嫁実施
- 安価熱エネルギーの積極使用

- 米国
- 23年度の南CAのセメント需要は微減であったが、需給のタイト感は継続
  - インフレによるコストアップは価格転嫁で吸収

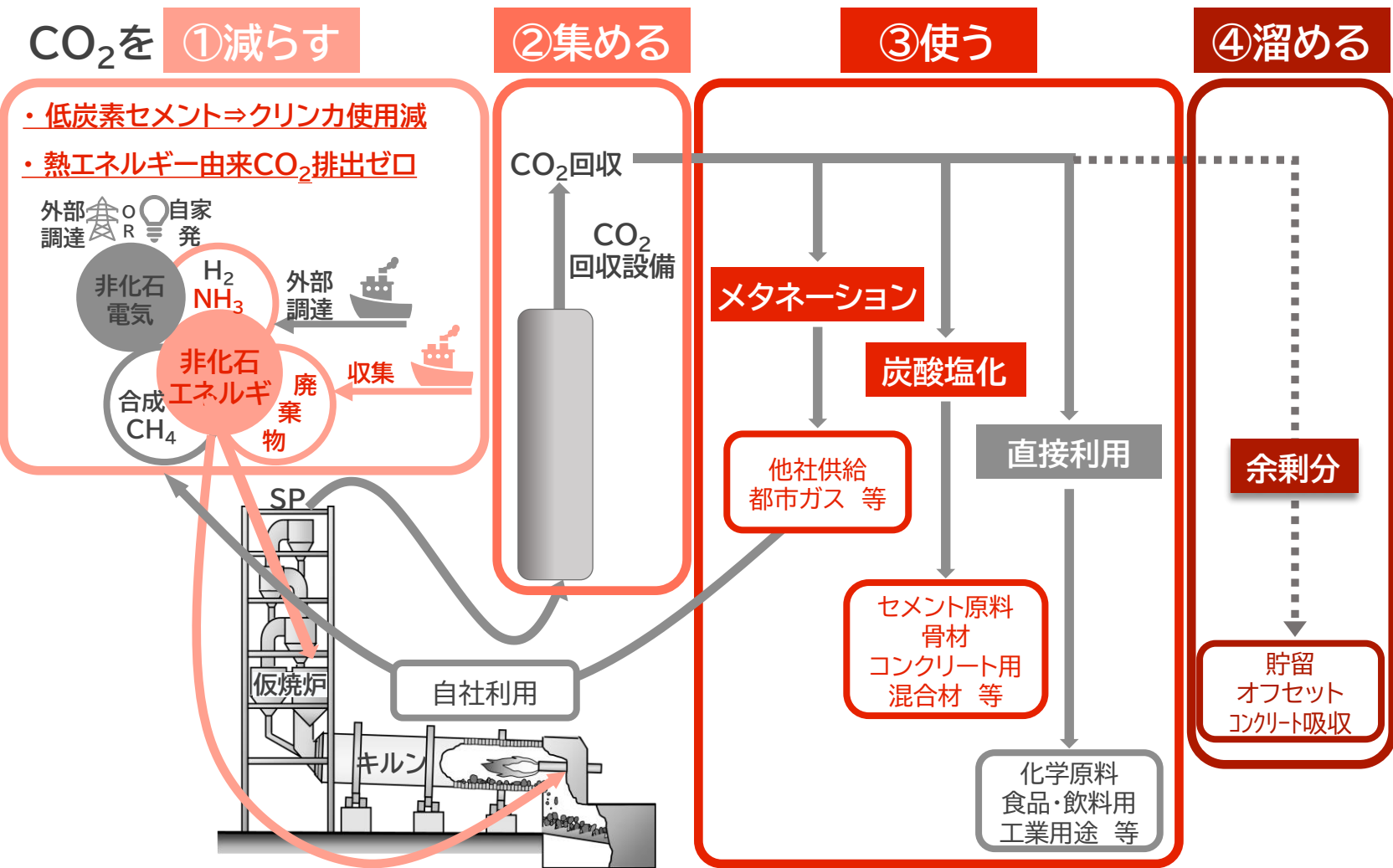
- セメント輸入ターミナル運用再開
- ミキサードライバー増員
- 価格転嫁の早期達成
- 骨材鉱山の拡張・取得
- 新規海外事業企画PJ発足



### ③地球温暖化対策の推進

#### ■ セメントメーカー独自の事業性のある脱炭素スキーム実現を目指す

取組み



1 ■低炭素セメント  
環境配慮型コンクリート共同開発  
(CO<sub>2</sub>削減量 約80%:普通コンクリート比)

■CNエネルギー転換  
アンモニア混焼実証試験設備着手  
(山口県補助事業)

■廃棄物利用  
廃プラ収集基地設置計画  
廃プラ処理設備増設

2 ■CO<sub>2</sub>回収技術  
固体吸収材他、各種技術の評価実施中

3 ■メタネーション  
実キルン排ガスからのCO<sub>2</sub>分離回収・メタン合成の小規模実証に成功

■炭酸塩化  
廃コン等を用いた直接炭酸化法を研究開発中(NEDO/GI基金事業)  
産官学連携の協議会に参画

4 ■貯留  
大阪ガス、三井物産と共同検討開始

## ④国内バリューチェーンの強化・拡大、⑤研究開発・経営ソフトの強化

---

### ■ 「足元固め」と「新たな成長への種まき」に向けた施策を着実に実行

#### ■ 国内バリューチェーンの強化・拡大

---

##### ■ 資源戦略

石灰石及びマグネシア製品の価格転嫁実施

##### ■ 組織・事業再編

九州地区の工場組織再編

MUCC商事(株)設立

高性能製品事業を統合(MUマテックス(株))

石灰石販売事業の統合(MUCC鋳産品部)

#### ■ 研究開発・経営ソフトの強化

---

##### ■ 研究開発戦略

地球環境対策と新規事業創出に注力

##### ■ 人材戦略

組織再編と適正配置推進

##### ■ DX戦略

推進組織の構築

DX推進人材の育成、DXリテラシー底上げ

新サプライチェーンシステム構築中

# 今後の取組み課題

- 2023年度の利益は想定を上回ったが、国内セメント事業の環境は厳しさを増している
- 国内事業の体質強化と成長戦略を早期に進め、2030年度の目指す姿を実現する

## ■ 事業環境の変化

想定を上回る内需減少

2024年問題等による  
各種コストアップ



国内セメント事業は  
依然厳しい状況

## ■ 目指す姿に向けた課題

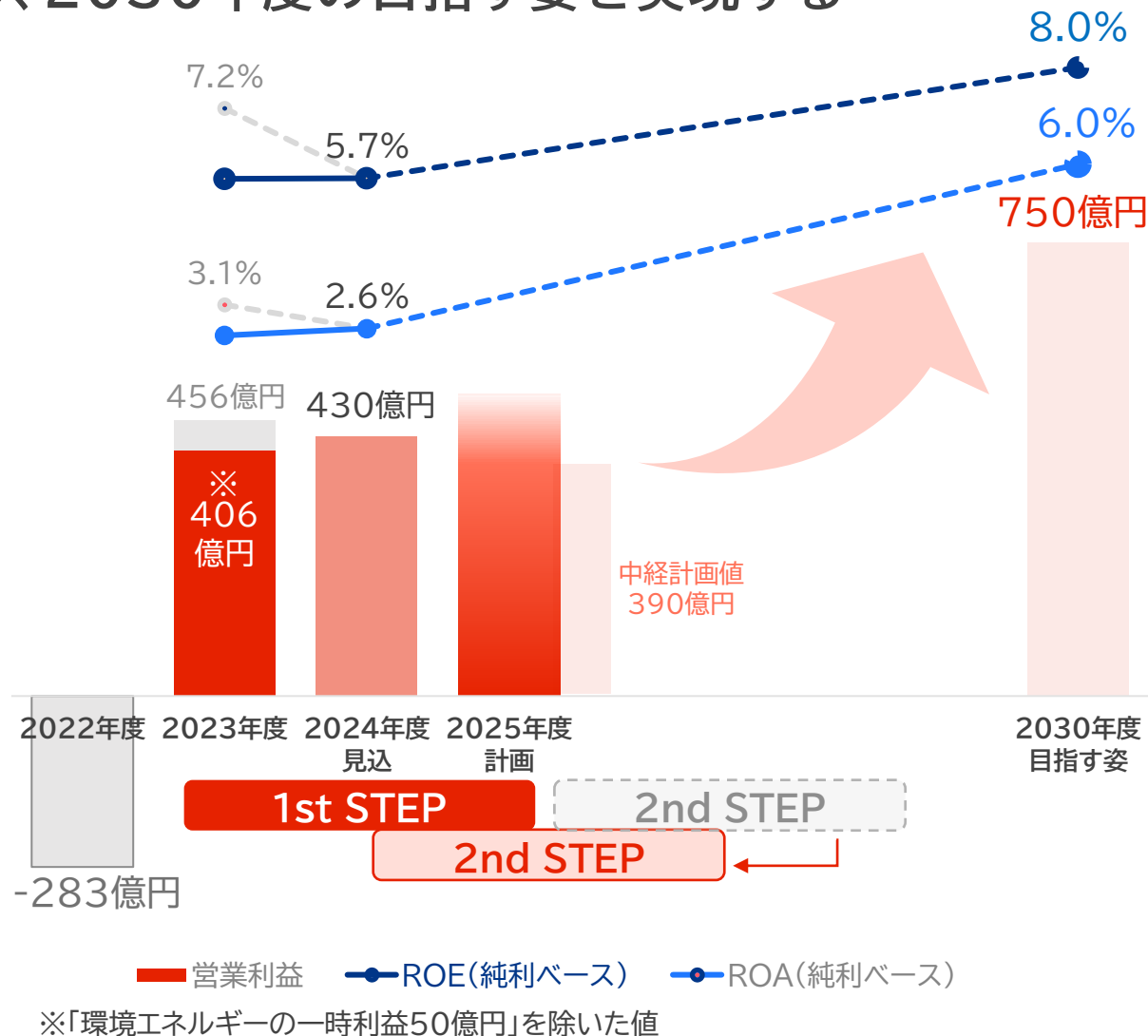
事業環境悪化をカバーする  
盤石な国内事業基盤を確立

- 最適生産・物流体制構築
- サステナビリティ確保のための価格設定



成長戦略を加速

- 新規海外拠点探索を推進
- 脱炭素に資する事業スキーム  
(新規事業創出を含む)



### 将来の見通しの記述について

本資料にある計画、戦略、業績予想等に関する記述は、記述した時点で当社が入手できた情報に基づいたものです。これらの予想・予測には、当社を取り巻く経済情勢、競合環境、関連法規、為替レート等不確実な要素が含まれており、これらの予想・予測を覆す潜在的なリスクが顕在化する可能性もあります。したがって、将来の実際の業績・事業環境等が本資料の記述と異なったものとなる可能性があることをご承知おきください。